高野山と大衆文化 一観光と宗教のはざまでゆれる「聖地」 一

大正時代は都市化と工業化が進み、東京や大阪などの大都市ではレジャーを楽しむ人々が増加しました。大阪の近くに位置する高野山では、鉄道を利用した参詣者が多く訪れ、周辺地域では観光関係の産業が発達しました。和歌山市紀三井寺の岩崎家に伝えられた当時の高野山観光に関する資料から、大正時代の高野山参詣についてみていきます。

1 資料

【資料1】高野山御参詣道しるべ・大阪難波高野下間電車発着時刻表





*資料全体のデジタル画像

【資料2】大正十六丁卯年の栞



* 資料全体のデジタル画像

【資料3】高野山宿坊、松茸山組合旅館等各種案内広告



* 資料全体のデジタル画像

2 解説

(1) 前近代までの高野山

平安時代初期、真言宗を開いた空海は、ユーラシア全域から人々が集う国際都市であった唐の。長衛に行って密教を学び、その後、高野山に金剛峯寺を建てました。平安時代末期には、仏教を厚く信仰する上皇や多くの貴族が、高野詣を繰り返しました。江戸時代には、庶民の間にも高野山参詣が広く行われました。江戸時代までの高野山は、広い寺領を所有して経済的に自立していましたが、明治時代に入ると、寺領を新政府に奉還して経済的に困窮しました。また、江戸時代までの高野山は女性が入山できない女人禁制でしたが、明治時代になり女人禁制が解かれました。

(2) 欧米での大衆社会の出現

19世紀末の欧米諸国では、第2次産業革命1による工業生産の拡大や賃金の上昇、植民地からの収益などによって国民の生活水準が上昇しました。その結果、農民・労働者などの職業的な枠を超えた集団が多くを占める大衆社会が成立しました。工業生産の拡大によって商品が大量生産、大量消費されました。また、賃金の上昇や労働時間の短縮による余暇の増加により、大衆はレジャーや雑誌、近代スポーツ、映画などを楽しむようになりました。

(3) 日本の大衆化と大正時代の高野山参詣

日本の東京や大阪では、第一次世界大戦による好景気の結果、急速に都市化し大衆社会²が形成されました。都市では、休日に鉄道を利用したレジャーを楽しむ人々が増加し、大阪の近くに位置する高野山にも、多くの観光客が訪れました。

大正時代の高野山参詣は、江戸時代までの参詣とは異なる様相を見せていました。南海鉄道株式会社(当時)は、大阪の難波と高野山を結ぶ鉄道を所有し、高野山までの所要時間の短さをアピールしたり、車内で女性ガイドによる高野山の名所案内を行ったりするなど、高野山への観光客を積極的に集めようとしていました。高野山の寺院も、経済的困窮を解決するために多くの観光客を受け入れることに積極的に取り組みました。一方、信仰の地としての高野山を保持することを目的に、高野山内の大規模な土地開発やホテル等の宿泊施設の建設には反対しました。

(4) 本資料について

本資料は、岩﨑家に伝わった文書群のうち、大正時代の高野山参詣に関する資料です。岩﨑家文書には、近代の日本各地の寺社参詣や景勝地の観光に関する資料があり、当時の岩﨑家に各地で参詣や観光していた人物がいたと考えられます。

資料1は、南海鉄道株式会社が作成した高野山に至るまでの路線図、時刻表です。高野山周辺の宿屋や自動車会社、寺院なども、このような路線図や時刻表を作成し、高野山への観光客を集めようとしていたことがわかります。

資料2は、高野山の寺院である普賢院が作成した冊子です。恒例法会や参詣案内、暦などが掲載されています。恒例法会のページには、1年間の高野山で行われる宗教的な行事が記されています。参詣案内では、電車の開通や駅の開業に伴い、交通の便がよくなったことなど、高野山参詣が容易となった点を強調しています。これらより高野山の寺院が、宗教施設としての意識を保持しつつ、観光客を集めようとしていることが理解できます。

資料3は、高野山の宿坊名や松茸山組合旅館名が記載された広告です。松茸狩りや松茸料理、ビールなどをアピールしており、寺院への参詣だけではない観光の楽しみ方が記されています。

^{1 1870}年代から始まった軽工業から重化学工業・電機工業・石油産業へと産業の中心が変化したこと。

² 日本での大衆社会の形成は幅広い人々の政治参加や女性の社会進出、社会的弱者や差別を受ける立場の人々の地位向上を求める運動を促しました。一方で、都市と農村、大企業と中小企業の経済格差はひろがりました。

3 活用のポイント

● 中学校社会〔歴史的分野〕の場合

第一次世界大戦後の日本の都市に住む人々の生活様式の変化といった文化の大衆化について、 和歌山県の生徒にとってなじみが深いと考えられる高野山への参詣から学ぶことができます。

● 歴史総合の場合…C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

C(1)国際秩序の変化や大衆化への問いの「生活様式の変化」に関する資料として活用できます。例えば、「資料では、どこから、どのような手段で人々は高野山へと向かっているか。」「大正時代の人々は高野山でどのようなことを楽しんだのだろうか。」などと問いかけることで、大正時代の都市の人々の暮らしや娯楽がどのようなものだったのかについて関心を持ち、疑問に思ったことや追究したいことを考えるきっかけになります。また、「近代の高野山では、女人禁制が解除されたことや、女性が観光案内のガイドとして働いていたことで、どの程度女性差別が解消されたと言えるのだろうか。」と問いかけ、女性の社会進出が進みつつも、職業のジェンダーギャップがあることに気付かせることで、現代の視点から当時のジェンダーについて考えることができます。

● 日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界

前近代と近代の高野山参詣の違いについて考察する際に活用できます。例えば、「江戸時代と大正時代の人々はそれぞれどのような目的で高野山に行ったのだろうか。」と問いかけることで、時代による人々の宗教に対する価値観の異なる点や共通点を見つけることができます。さらに「あなたは高野山に行きたいですか。その理由は何ですか。」と問いかけ、生徒自身が高野山をどのように捉えているかを認識させることで、現在を生きる生徒たちの価値観と過去の人々の価値観の相対化をはかることができます。

● 公共の場合…A 公共の扉

A(3)公共的な空間における基本的原理において、2028(令和 10)年までに導入する方針が発表された高野山観光客への「入山税」に対して自らの考えを形成し、議論する際の資料として活用できます。本資料からは、オーバーツーリズムといわれる現在の過度な観光地化による課題に対して、大正時代の高野山が観光振興をするなかで信仰の地としての意識をどのように保持しようとしたかと考察して課題を考えるヒントになります。

4 出典

- ・【資料1】当館寄託 岩﨑家文書
 - 整理番号 2623「高野山御参詣道しるべ・大阪難波高野下間電車発着時刻表」
- ・【資料 2】同上 整理番号 5317「大正十六丁卯年の栞」
- ·【資料 3】同上 整理番号 2624「高野山宿坊、松茸山組合旅館等各種案内広告」

5 関連資料・ウェブサイト等

・パネル展示「世界遺産登録 20 周年岩﨑家文書にみる、100 年前の高野山参詣」(和歌山県立文書館)

6 参考文献

- ・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史 近現代1』和歌山県、1989年
- ・明山文代「近代期における高野山の変容と聖地管理-観光開発の中での聖性保持の取り組み」(和 歌山大学観光学部編『観光学』22 巻、2020 年)